## 和 だ 田



## 1 集落の歴史

#### (1) 地名の由来

和田の元来の地名は、「輪田」で「輪」を佳字の「和」に変えて「和田」としたものと想像される。「和田」は、川の曲がりくねった土地で、やや広い丸みのある平地を表している。和田の地名は全国的に見ても大変多く、県内でも北魚沼郡堀之内町、川口町、広神村、南蒲原郡下田村、栃尾市、新潟市、上越市などに見られる。いずれも魚野川、刈谷田川、信濃川、関川などの川沿いにあり、安塚町の和田と同じように名付けられたと思われる。

河川の曲がりくねった地点に、そこだけ常に堪水し、平地に水田の開けた場所をいう。

#### (2) 集落の形成

和田が歴史の上にその名を現すのは、戦国時代末期、上杉景勝統治の文禄(1592~96)ころの「越後国郡絵図」で、これによると「富永与次郎分、和田村、下、本納7斗・縄ノ高2石1升1合6勺、家1軒・5人」とある。富永与次郎の支配下で家1軒・5人は、近隣の小黒7軒・29人、大原6軒・21人、戸沢2軒・7人、芹田4軒・12人、行野6軒・18人と比較すると現在の和田集落からは、想像もできない小さな集落であった。

伝説によると、大昔和田の今の沖田は、湿地だったという。現在の小黒郵便局及び雪だるまクリニック裏は、小字名「古川」で、また同名の屋号もあり、かつて小黒川が流れて

いたのであろう。この付近の田は所によって 泥深く、足が沈まないように木を田の底に沈 めてその上を歩き作業をした。また牛馬の足 は埋まるので、一切田に入れられなかった。

川の深い淵か淀みの名残であろう。さらに 沖田の中央部には、小字名「上谷地」と「下 谷地」があり、伝説の湿地であったことを証 明するものである。

小黒川は、この2つの谷地を真ん中に、古 川と現在の小黒川の間を暴れ回る大きな氾濫 原を造っていたと思われる。当時の農具や川 普請道具では、手も足も出なかった。

その後、文禄から約50年後の「正保の国絵図」(1644~47)では高179石余、天和3 (1683)年の郷帳では高183石1斗余、このほかに高21石8斗余の新田が記録され、急に開田が進み、和田としての集落形成も整ってきた。

江戸時代に入り、政情が安定化した時期に 農民が進んだ農業技術を駆使して、開田に励 む姿がうかがわれる。さらに、安永 9 (1780) 年の新田検地帳では、高28石 9 斗余が新田と して増加している。

和田集落の氏姓を分けると、平成15(2003) 年4月1日現在で81戸中、横尾19戸、澤田16 戸、秋山10戸とまとまり、全体の6割強を占 める。あとは北島6戸、竹内、和栗、笹崎は それぞれ4戸、残り18戸はすべて異なる氏で ある。近隣の大原、小黒、芹田集落などは、 2種類から7種類どまりの氏である。

上杉景勝統治の文禄時代、「越後国郡絵図」 によると年貢を納める家は1軒とある。その ころは近隣の集落より遅れて開けたと思われる。

周辺集落の行野から横尾、石橋から秋山、 坊金から竹内が、本郷から北島が移り住んだ といわれるが、澤田姓のことはわからない。 24もの氏が81戸の中にひしめき合い、集落を形成しているが、近隣はもちろん、広く県内、県外から移り住む者もいて、明治から大正、昭和にかけて大きな集落に成長した。

#### (3) 地理的環境と交通

関田山系の東頸城丘陵地に属し、町の中央部を北方向へ流下する小黒川筋の比較的平坦な、標高130~160m付近に位置し、東は行野、南は大原・樽田、西は芹田・本郷、北は細野に接する。農業地域で稲作単作地帯であり、商工業はわずかである。

昔は、隣接するこれらの集落へは徒歩で行き来するよりなかった。近年明治時代から、 大正・昭和にかけて道路の開削、改修が盛ん に行われるようになった。

昭和30 (1955) 年代に入り町道・県道の改修が多くなり、昭和40年代から50年代にかけて農免道路が町内各集落間を連絡し、昭和60年~平成年代に入り東頸城郡縦貫広域農道が完成した。また町内を県道から昇格した国道403号と405号が走り、車社会に適応した道路網の整備は隔世の感がある。

冬期間の除雪は、町道の集落内除雪から、 国・県道の除雪まできめ細かになされ、無雪 道路が確保されている。車の運転ができない 高齢者の買い物や、通院のための公共的交通 手段の継続は不可欠な課題でもある。

国道405号沿いに商店街、小黒郵便局とJA えちご上越小黒支店、海洋センター、森林組 合出張所、雪だるまクリニック、老人福祉施 設やすらぎ荘、菱神社、光円寺、集落センタ ー、高齢者共同住宅かたくりの家などがあ る。

#### (4) 戸数と人口の変化

和田集落の古文書の中に、戸数と人口にかかわるものは見当たらない。戦国時代末期、上杉景勝統治の文禄と慶長2(1597)年の「越後国頸城郡絵図」には、家1軒と5人とある。その後「正保の国絵図」、「天和3年の郷帳では、年々石高が上がり、新田検地帳では20~30石ずつ増加している。

この状況は、政情が安定した江戸時代に入って、急速に開田が進み和田の集落形成が整い、人口が増加の一途をたどっていた証拠と推測される。その後明治までの動きは明確ではないが、明治5(1872)年の戸数は70戸と、大きな集落に発展していった。以来戸数は減ることはなく、微増し続け、ピークは昭和50年の89戸である。

人口の最高は、昭和12年の604人で、以降 年々、数名規模で減り続け、近年は特に出生 率低下のため、平成15年4月1日現在、戸数 81戸、人口277人と減少の幅が年々広がって いる。

表 3 一14		戸数と人口の推移				

年号	西暦	戸数	男(人)	女(人)	合計	出,	<del>Ļ</del>
慶長2	1597	1戸	-	-	5	「越後国郡絵図	
明治5	1872	70	_	-	419	平凡社『新潟県の』	也名』
明治22	1889	75	-	-	466	『県市町村合併	誌』
昭和12	1937	81	-	1	604	「郷土調査資料	ŀJ
昭和30	1955	87	256	250	506	「統計でみるやす	ゔゕ゙゙゙゙゙゙
昭和40	1965	84	216	229	445	「統計でみるやすっ	ゔゕ゙゙゙゙゙゙
昭和50	1975	89	196	188	384	「統計でみるやすっ	ゔゕ゙゙゙゙゙゙
昭和60	1985	88	183	177	360	「統計でみるやす	ゔゕ゙゙゚゚
平成 7	1995	85	171	162	333	「統計でみるやすっ	ゔゕ゙゙゙゙゙゙゙
平成15	2003	81	137	140	277	役場資料	

## 2 神社、寺院と文化財

#### (1) 菱神社の歴史

集落の北の外れの第二河岸段丘上に菱神社 がある。祭神 倭 姫 命。天正年間(1573~



写真 3 - 79 菱神社

(平成2年改築)

92) の鎮座といわれる。天明8 (1788) 年、 寛政2 (1790) 年に火災にあい旧記を焼失し たという。

明治40 (1907) 年諏訪神社を合祀。社宝として左・右大臣 2 体が祀られる。像の高さ50.5cmの松材一木づくりで鎌倉時代初期の作である。祭礼は5月9日と9月3日及び10月26日の3回である。

末社の金力毘羅神社や釜山彦命・釜山 姫命を祀る石祠がある。集落の一段上の段 丘上は古くから地すべり災害を受けることの ない地形で、字中村からは中世の珠洲焼きの 破片が出土する。また字品ノ木平には、室町 期の五輪塔がある(平凡社『新潟県の地名』)。

神社は昔から五穀豊穣と家内安全を祈り、 村人が集い憩う場所でもあった。お盆になる と盆踊りの輪が二重、三重に膨らみ、若者が 多勢集まり活気に満ちていた。現在は参詣す る氏子も高齢化してきた。

#### (2) 光円寺の歴史

集落の中央部の第二河岸段丘上に光円寺がある。集落の一段上の段丘は、古い時代から地すべり災害を受けることのない、眺望のきく一等地に開けている。

本寺開山僧竹内幸縁師は、現安塚町大字和 田2317番地竹内一男家の出身であり、浄土真 宗大谷派東本願寺で得度、現安塚町大字小黒



写真3-80 現在の光円寺の御堂 1212番地真宗大谷派専敬寺で修行の後、享保

17 (1732) 年光円寺を創建した。 開山以来270年余り、地域の信徒に浄土真 宗を説き続けてきた。昔は住職の説法を聞く

ために、御堂が一杯になるほど信徒が集まったが、近年はいずこも人数は限られている。 しかし、十数年前より青壮年を中心に光円

も同朋の会を結成、角度を変えた布教活動が 盛り上がっている。

旧小黒小学校(現やすらぎ荘)の上の南方 向の大原境に、小字「向山」がある。ここに 高源寺屋敷跡があり、現大島村仁上の高源寺 はここから移転したものという。

### (3) 石 造 物

観 音 堂 小字名「十二の木」に十二神社 がある。明治40年、菱神社に合



写真 3 - 81 観音堂の存在を裏 付ける石造遺物

祀されたが、そのすぐ上の方の小さな山の尾根に観音堂があって、現在でも境内跡がはっきりと確認できる。また境内跡の東側には、静かな雑木林の中を下からジグザグに登る道跡があり、「観音坂」と呼ばれていたり、近くからは写真3-81のような梵字の書かれた石像遺物が見つかったりする。

近くで五輪塔も2基見つかった。

#### (4) 米山薬師

米山薬師は、安塚町大字和田集落の北東に 位置する。大きくないが急峻な山の尾根にあ る。昔集落の長老により発案され、五穀豊穣 を祈願する場となった。文久 2 (1862) 年春 のことで、約140年前のことである。

柏崎市の米山薬師を遠望できる位置にあ り、山頂には「薬師如来像」が祀られている。

一時中断していた薬師祭も数年前から成壮 年会により再開、年々盛大になっている。



写真3-82 米山薬師祭の模様

## 3 福祉の拠点

# (1) 在宅複合施設「やすらぎの里」と 高齢者共同住宅「かたくりの家」

日本一の福祉を目指してきた安塚町は少子 高齢化と、核家族化の中、高齢者の医療福祉、 住環境整備なども進めている。「やすらぎの 里」は、施設を更に拡充して需要に応じられ

#### るように体制を整えた。

ひとりで孤独にならず、身の回りのことを 自分でできる高齢者が、少人数集まって共同 生活を送る試みが「かたくりの家」で始まり、 互助的生活集団として注目される。

#### (2) 雪だるまクリニック

既に安塚町医療の中核的役割を果たしている。「やすらぎの里」「かたくりの家」などと 連携して安塚町高齢者福祉の拠点を形成して いる。ますます高齢者が増加傾向にあるた め、クリニックの拡充が期待される。

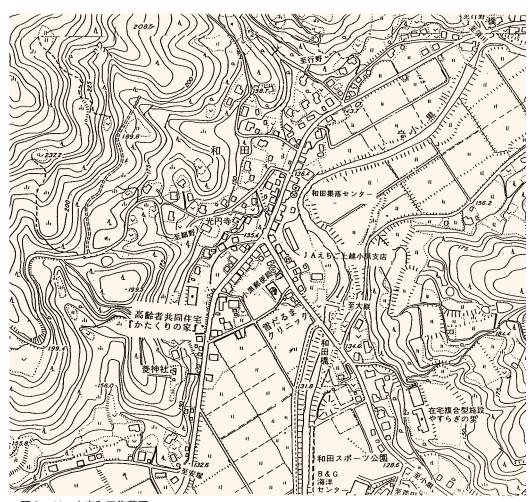


図 3 -11 大字和田集落図

## 4 和田の小字

表 3 -15 大字和田の小字名

小	字	名	読み方	連番	小 字 名	読み方	連番
鳥		越	トリゴエ	01	吉沢	ヨシザワ	17
屋	敷	田	ヤシキダ	02	小 越	コゴエ	18
畦		高	アゼタカ	03	大 諏 訪	オオスワ	19
上	谷	地	カミヤチ	04	作 道	ツクリミチ	20
宮	1	下	ミヤノシタ	05	火 打 原	ヒウチワラ	21
下	谷	地	シモヤチ	06	古 川	フルカワ	22
_	ノ	П	イチノクチ	07	牛 ケ 久 保	ウシガクボ	23
向		沖	ムコウオキ	08	中 村	ナカムラ	24
向		Щ	ムコウヤマ	09	崩	ヌケ	25
鳥	井	田	トリイダ	10	鳥 手 町	トリデマチ	26
上		沖	カミオキ	11	傘 木	カラカサギ	27
柳		沢	ヤナギサワ	12	鳴 子	ナルコ	28
五	十	山	ゴジュウヤマ	13	原 山	ハラヤマ	29
松	葉	山	マツバヤマ	14	袖 山	ソデヤマ	30
品	ノ木	平	シナノキタイラ	15	天 ケ 池	アマガチ	31
+	ニノ	木	ジュウニノキ	16	桑鉾	クワボコ	32



図3-12 大字和田の小字図



写真 3 -83 「慶長 2 年越後国郡絵図」 (米沢市 上杉博物館蔵)

注: 文禄 (1592~96) 年ころの和田の絵図である

·富永与次郎分

和田村 下 本 納 7斗

縄ノ高 2石1升1合6勺

家 1軒 5人